
口頭発表 | 1. 栄養・飼養

栄養・飼養2

Chairperson: Akira Kurosawa(Tokyo university of Agriculture), Kenichi Izumi, Masahito Kawai, Takamitsu Tsukahara(Kyoto Institute of Nutrition & Pathology), Takahiro Kawase, Sho Ishikawa, Hajime Kumagai, Takuji Hirayama(UNIV of Ishikawa pref.)

Fri. Sep 16, 2022 1:00 PM - 5:00 PM Zoom会場1 (オンライン)

I-16-18~I-16-19 : 黒澤 亮

I-16-20~I-16-21 : 泉 賢一

I-16-22~I-16-25 : 河合 正人

I-16-26~I-16-29 : 塚原 隆充

I-16-30~I-16-31 : 川瀬 貴博

I-16-32~I-16-34 : 石川 翔

I-16-35~I-16-37 : 熊谷 元

I-16-38~I-16-40 : 平山 琢二

4:30 PM - 4:40 PM

[I-16-39]黒毛和種去勢牛の血中ビタミン A濃度が体脂肪脂肪酸組成に及ぼす経時的影響

*Emi Yoshida¹, Tastunori Masaki¹, Shigeru Oosaki¹, Mana Hosoda², Shuji Ueda² (1. Hyogo Pref., 2. Kobe Univ.)

【目的】兵庫県の枝肉市場ではモノ不飽和脂肪酸（MUFA）割合の表示販売を行っており、生産現場から脂肪質改善技術の開発が求められている。脂肪酸不飽和化酵素(SCD)はビタミン A(VA)が発現量に関与しているとラットで報告がある。当所の試験で血中 VA濃度が体脂肪のステアリン酸割合に影響することが分かっている。そこで、VA濃度の違いが体脂肪の MUFA割合に及ぼす影響を検討した。【方法】12か月齢の黒毛和種去勢牛20頭を VA濃度の違いにより高区と低区に分けた。18~27か月齢時に、高区は40~50IU/dl、低区は20~30IU/dlで推移するよう VAを給与した。飼料摂取量は毎日、体測値は毎月、血液成分は2か月毎に測定した。体脂肪は第5-6腰椎部の皮下脂肪を2か月毎に採取、分析した。30か月齢でと畜後、第6-7肋間の胸最長筋、筋間、皮下および腎周囲脂肪の脂肪酸組成を分析した。枝肉格付は日本食肉格付協会の格付結果を用いた。【結果】 MUFA割合は経時的に増加したものの、試験区間で有意な差はみられなかった。多価不飽和脂肪酸割合は高区の方が28か月時に高値を示した。枝肉成績および SCDmRNA発現量は差がなかった。脂肪酸組成と発育等の関係を調査した結果、MUFA割合と肥育中期1日あたり増体量に正の相関($r=0.581$)がみられた。中期の発育改善で MUFA割合を高められる可能性が考えられた。